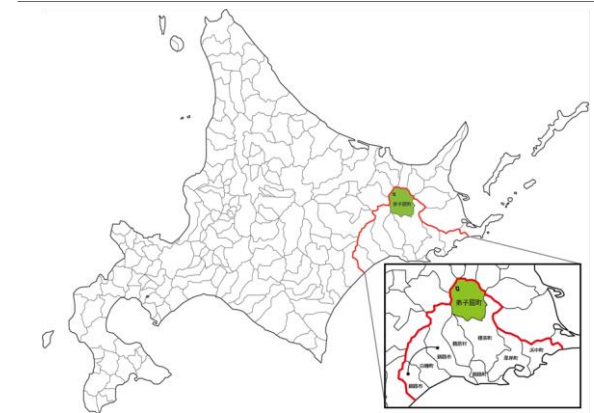


豊かな自然を守りながら、持続可能な観光地づくりと脱炭素の両立
によって町の活力を生み出す“てしかがゼロカーボンシティ”

弟子屈町

弟子屈町(てしかがちょう)の概要

- 立地：東北海道の中心に位置。女満別空港、中標津空港、釧路空港へのアクセスが容易。町の面積の約65%が阿寒摩周国立公園に位置する。活火山のアトサヌプリや豊富な温泉資源を有する。
- 人口・世帯数：6,646人、3,790世帯
- 面積：774.76 km²
- 基幹産業：
 - 農業(肉牛、豚、生乳)
 - 畜産業(加工用馬鈴しょやそば、でんぷん、甜菜)
 - 観光(川湯温泉街、摩周湖、屈斜路湖)
- 町の特徴：
 - 長年にわたる温泉・温泉熱利用(温泉暖房、マンゴー・イチゴ栽培)
 - 地熱資源開発事業
 - 川湯温泉エリアの再開発



地域脱炭素に向けた計画

■ 民生部門

1 再エネ電力の供給体制構築

- 町内外にフラッシュ発電の電力を供給できる体制を構築
- 電力小売を行う地域新電力会社の設立

2 バイナリー発電の導入

- 45kW程度の出力規模のバイナリー発電を導入
- 複合型地域観光交流拠点施設での自家消費を実施
- 熱利用の可能性について検討

3 屋根設置型太陽光発電（オンサイトPPA）の導入

- オンサイトPPAによる住宅、公共施設、宿泊施設等への屋根設置型太陽光発電の導入

■ 民生部門以外

1 (運輸部門)公用車のEV転換・EV用充電設備の導入

- 2030年までに全体の半数強にあたる12台をEV転換
- 役場庁舎や宿泊施設等へのEV用充電設備の導入

2 (熱利用・供給)建物の暖房機能強化

- 住宅、宿泊施設等への温泉給湯
- 温泉熱利用の冷暖房設備等の整備

■ 実施計画

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度 (最終年度)
民生部門の電力消費に伴うCO ₂ 排出実質ゼロ	(参考) フラッシュ発電の開発 各種調査・詳細設計 → 発電所建設 → 運転開始 (2MW程度)							
	取組① 再エネ電力の供給体制構築 地域新電力会社の設立検討 → 先行地域内へのフラッシュ発電の電力供給 (電力小売)							
	取組② バイナリー発電の導入 各種調査・詳細設計 → 発電所建設 → 運転開始 (45kW)							
	取組③ 屋根設置型太陽光発電 (オンサイトPPA) の導入 導入可能容量の調査 → PPA事業者選定 → 施工、順次運用開始 (毎年400kW程度施工、合計2,126kW)							
民生部門電力以外の温室効果ガス排出削減	取組④ 建物の暖房機能強化 <住宅、民間施設 (宿泊施設等)> 導入施設選定・詳細設計 → 予算確保 → 導入拡大							
	<弟子屈小学校> 詳細設計 → 予算確保 → 導入・運用							
	取組⑤ 公用車のEV転換・EV用充電設備の導入 EV用充電設備の導入場所検討・導入支援制度の検討 → 予算確保 → 公用車のEV転換 (12台)、EV用充電設備導入							

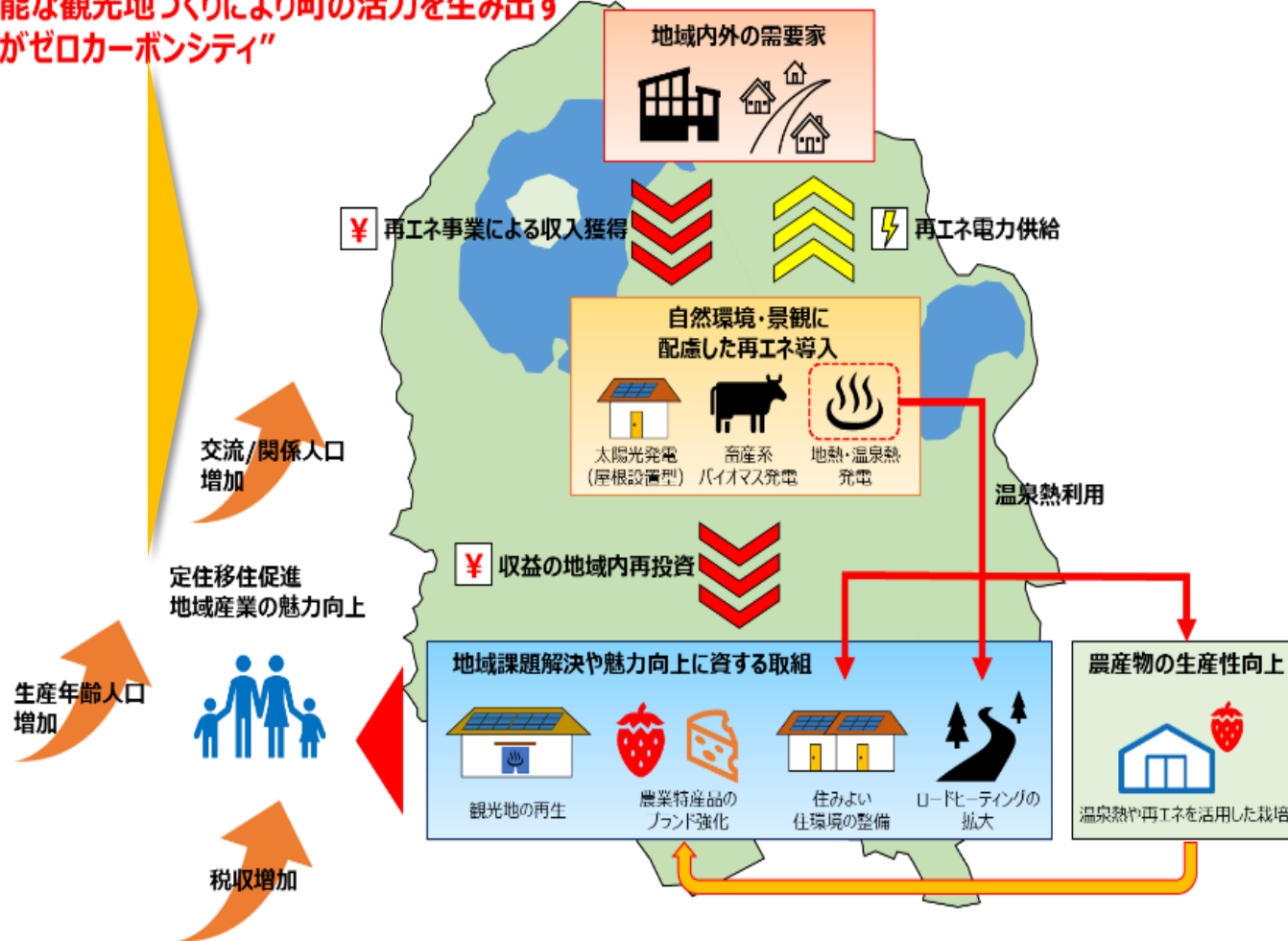
地域脱炭素に向けた取組によって本町が目指す姿

豊かな自然環境を守りながら
持続可能な観光地づくりにより町の活力を生み出す
“てしかがゼロカーボンシティ”

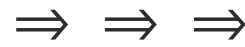
ポイント①：
自然環境や景観に配慮しながら
地熱資源を核とする地域資源を
最大限活用して再エネ導入

ポイント②：
持続可能な観光地づくりや生活
環境の改善に資する再エネ活用
の促進

ポイント③：
再エネ事業による収益を地域
課題の解決や地域の魅力向上
に資する取組に再投資



地域脱炭素に向けた課題



民間企業様に期待すること

■ 夏場の温泉熱利用

⇒ 温泉資源は豊富だが、夏場はその**熱利用**ができていない

夏場に発生する温泉熱を有効活用するアイデアが欲しい

例) 冷房補助の動力

■ 川湯地域における取組

⇒ **強酸性**の泉質による耐候性への対応が必須

硫黄による太陽光パネルを始めとする再エネ設備の**耐候性を向上させる**アイデアが欲しい

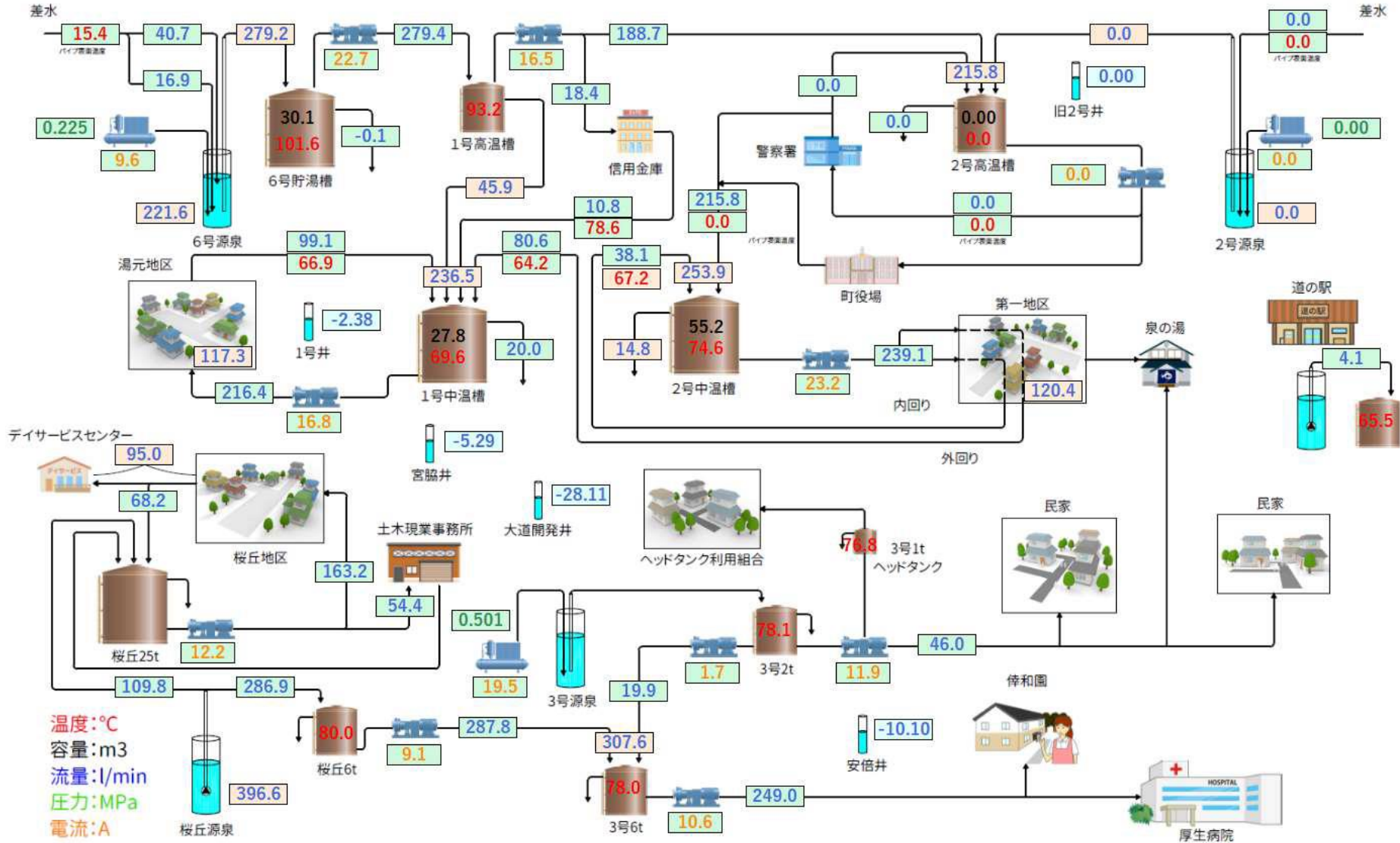
■ 国立公園内における脱炭素化

⇒ **景観を壊さず**、かつ脱炭素化に向けた取組を進められるか？

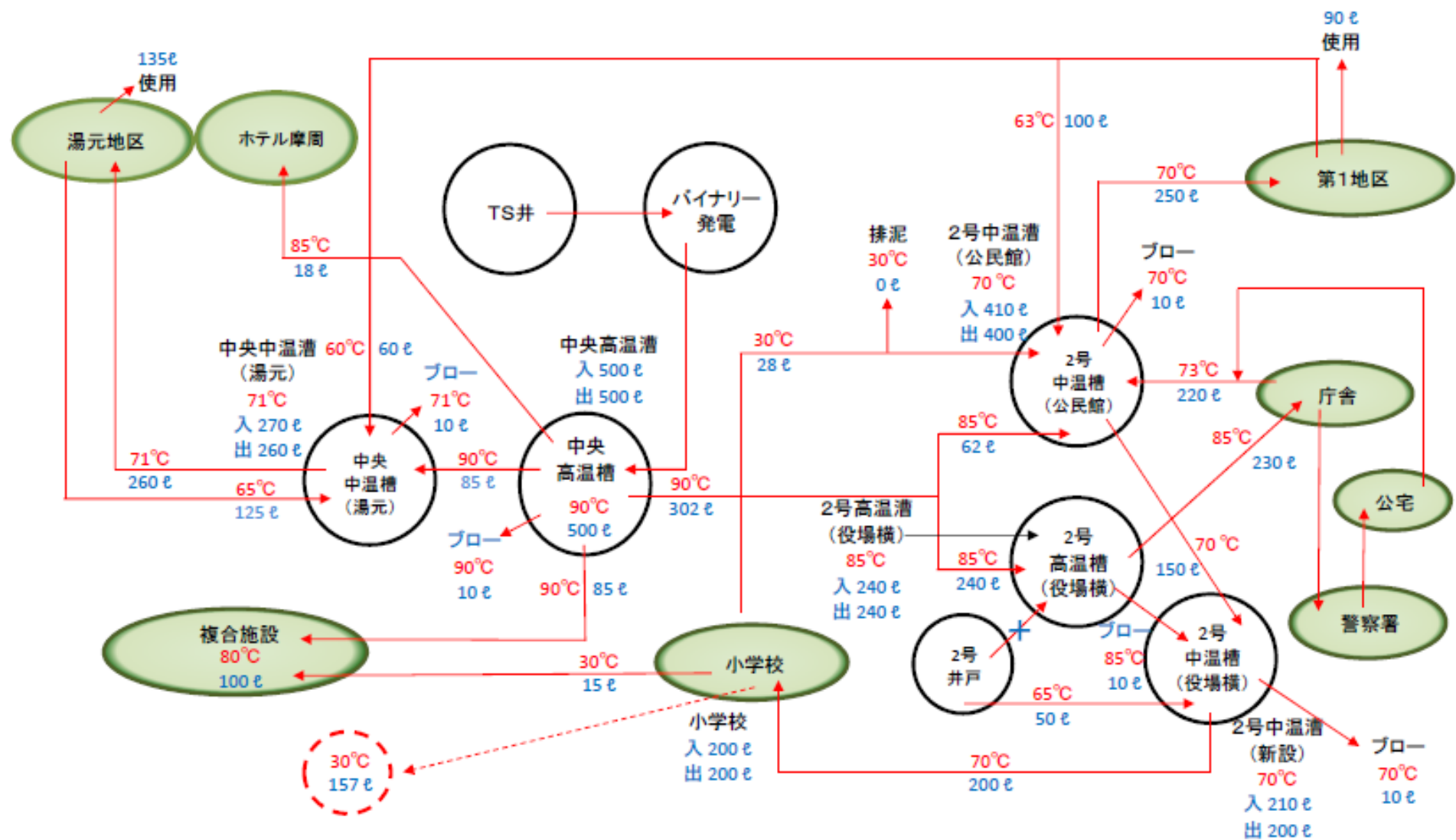
景観を保持しながら導入できる再エネのプランを知りたい

民生部門へ展開するアイデアが欲しい

弟子屈町温泉給湯網システム



温泉給湯イメージ





弟子屈町